

〈百日咳について〉

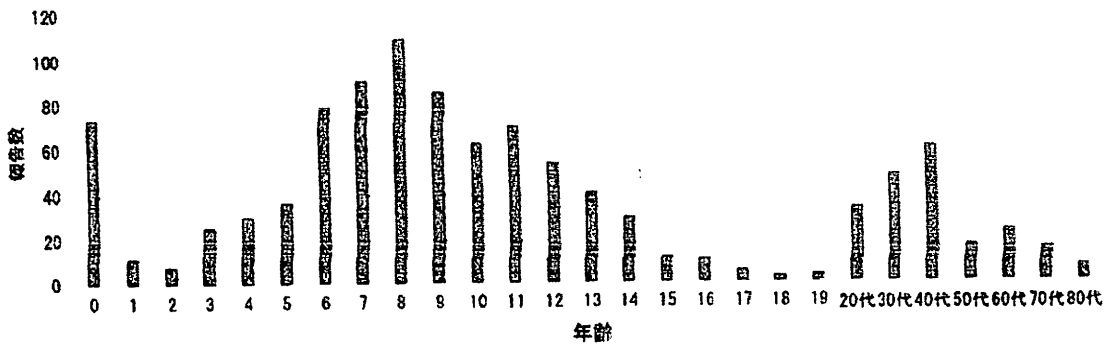
最近小学生の長引く咳の方の中に百日咳のものがチラホラいらっしゃいます。今回は百日咳についてお話しします。

百日咳の原因は百日咳菌が原因です。感染力が強く咳がひどいのが特徴です。0歳児が百日咳にかかると死亡する場合もあり注意が必要です。

咳やくしゃみなどの飛沫を介して感染します。潜伏期間は多くの場合5~10日程度です。咳が出始めて2週間ほどは百日咳菌を排出する可能性があります。早期の抗菌薬治療で菌の排出期間が短くなると考えられています。

百日咳の年齢別の発生数は5~9歳が36%、10~14歳で26%、重症化しやすい生後6か月未満は約5%です。学童期の子どもが百日咳に罹ることが多いです。

百日咳 年齢分布 (2018年)



百日咳の予防接種の効果は4~12年で減弱するため思春期や成人での発生が多く、6か月未満の赤ちゃんは兄弟姉妹や両親からうつる事が多いです。

日本小児科学会では赤ちゃんの時の4種混合ワクチン・5種混合ワクチンに加えて5~6歳と11~12歳での3種混合ワクチン(百日咳の成分を含んでいます)を接種することを推奨しています。ただ全額費用負担が必要となる問題があります。

